

女性アイドルの同性ファンの意識 —なぜ女性が女性アイドルを好きになるのか—

富岡 ひかり

現在、女性アイドルのライブやイベント会場での女性エリア設置や女性ファン向けグッズ販売がなされている。そこで本研究では、女性が女性アイドルを好きになる理由と女性アイドルは女性ファンにとってどのような存在か、ライフストーリーの影響を交え調査する。

先行研究として小城(2006)はファンの性別×ファン対象の性別に4分類し量的に調査した。しかし、ファン対象にスポーツ選手や芸術家も入っており女性アイドルに絞った結果は出ておらずファン動機も未測定である。したがって、本研究では女性が女性アイドルを好きな理由を明らかにするため半構造化インタビューによる質的調査を実施した。調査対象は女性アイドルを好きな20歳前後の女性7名である。

女性アイドルに対して抱く感情として、①憧れとしての教師的好き、②疑似恋愛感情を抱く恋愛的好き、③拝みたいという宗教的好きの3種類があることが分かった。また好きな女性アイドルを(イ)ほぼ肯定的目線でのみ見るタイプ及び(ロ)厳しい目で観察・分析の対象としても見るタイプの2タイプがあった。

まず、今回の調査対象者は全員が女性アイドルに①を持っていた。②を持つ人以外は男性アイドルに対する好きは疑似恋愛感情に近いという。また、全員が家族や親戚などに近い世代の憧れの女性がおらず、そのことが影響して同世代で自分にはないもの(容姿やセンス等)を持っている女性アイドルを憧れとして好きになったと考えられる。

また、今回の調査対象者で、同性である女性アイドルに対して②を持っていたのは2名で、どちらも一人っ子であった。同じ一人っ子でも疑似恋愛感情がない人がいたがその人は現実での異性との恋愛経験があり、かつ男性アイドルに疑似恋愛感情を抱いているからだと考えられる。また、一際強く③を持つ人が2人いたが、どちらも②を持つ人であった。

加えて、女性アイドルに対して(ロ)のタイプの人が3名いたが、全員①がありかつ比較的高学歴であった。これは自らの受験経験をアイドルの仕事への取組に重ねてしまうと考えられる。この中でも一段と厳しい人が1名いたが、その人は女性アイドルを偶像ではなく親近感あるものだと感じている。そのため遠慮なしに批判をしてしまうと考えられる。

また、対象者の多くが女性アイドル好きであると誰にでも言える中で、友人にしか言えないという人が1人いた。その人はマイナーな女性アイドルのファンであるが、海外留学から帰国後、日本での学校生活になじめなかった経験があり、マイナーな同性アイドルを好きであることは人に変に思われるのではないかとそのときから警戒し続けているからだという。

以上から、身近な近い世代に憧れの女性がいるかどうかや過去の恋愛・受験経験が、女性アイドルを好きになる理由や疑似恋愛感情を持つか否か、そしてどのような目線で見るといふことに影響を与えている可能性があることが分かった。

(指導教員 後藤 嘉宏)